

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスおひさま		
○保護者評価実施期間	2026年 4月 1日		2026年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 4月 1日		2026年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動を通して社会性や生活スキルの育成に取り組んでいる。 今後は、プログラムの体系化により、子どもの成長段階に応じた支援の充実を強化していく。	ヒヤリハットや、小さな出来事まで気になることがあれば、すぐに共有するようにしている。 共有や話し合いの場をより多く設けるように心がけ、今後の支援をより良いものができるよう努めている。	個別支援計画の見直しやアセスメントの充実を図り、より効果的な支援の提供に取り組む。 支援記録の活用を進め、根拠に基づいた支援の強化を図る。
2	児童指導員や保育士等が連携し、専門性を活かした支援が行われている。 今後は、研修や事例検討の機会を増やし、支援の質のさらなる向上を目指す。	遊びや活動を通して、順番やルール理解、人との関わり方を自然に学べるよう工夫している。 小集団での活動を取り入れ、個々のペースに合わせた関係づくりを行っている。	学校や相談支援専門員等との情報共有をより密にし、一貫した支援体制を構築する。 地域資源の活用を進め、支援の幅を広げる。
3	子どもが安心して過ごせる環境や関係性が構築されている。 今後は、環境設定や支援方法の標準化により、誰でも同じ質の支援が提供できる体制強化を目指す。	子どもが安心して過ごせるよう、肯定的な声かけや受容的な関わりを意識している。 気持ちの切り替えがしやすいよう、静と動の活動バランスを考慮している。	地域イベントや外出活動の機会を増やし、社会との関わりを広げる。 将来の自立に向けた体験活動(買い物・公共交通利用等)を充実させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の社会資源や外部プログラムの活用が十分とは言えない。	地域資源に関する情報収集や連携の仕組みが体系化されていないことが要因である。	地域資源の整理と定期的な情報更新を行い、外部機関との連携強化を図る。
2	活動環境は整備されているが、感覚特性や集中力に応じた個別的な環境調整が十分ではない。	環境調整の基準が明確でなく、職員ごとの判断に委ねられていることが要因である。	環境調整の基準を整理し、視覚支援や空間構造化などの工夫を標準化していく。
3	日々の支援は行えているが、将来の自立を見据えた長期的視点での支援計画が十分に反映されていない。	短期的な課題対応に重点が置かれ、長期目標の具体化や共有が不十分であることが要因である。	長期目標を明確化し、短期目標との連動を図ることで、段階的な支援計画の構築を進める。